

2 世界恐慌と日本の中国侵略

課題 日中戦争は、中国や朝鮮、日本人の生活にどのような影響をあたえたのでしょうか。

組

番

⑤ 日中戦争と戦時体制

(1) 日中戦争の開始と長期化

満州を支配下に置いた日本は、さらに中国北部に侵入しました。中国では、国民政府（国民党）と共産党との内戦が行われていましたが、抗日運動が盛り上がる中、（ ）が率いる共産党は、（ ）を指導者とする国民党に協力を呼びかけ、1936（昭和11）年に内戦を停止しました。

1937（昭和12）年7月7日北京郊外の（ ）付近で起こった中両国軍の武力衝突（ ）をきっかけに、日中戦争が始まる。

戦火は中国中部の上海に拡大し、全面戦争に発展しました。これを受けて、国民党と共産党は日本との戦争のために協力し合うことを最終的に決め、（ ）が結成された。



盧溝橋を占領し、バンザイを唱える日本軍

抗日民族統一戦線

**毛沢東** (1893~1976)  
中国共産党の指導者。1949年、中華人民共和国を建国し、建国の父と呼ばれた。亡くなるまで最高実力者の地位に君臨した。

**蒋介石** (1887~1975)  
中国国民党の指導者。1945年以降、再び中国共産党との間で内戦が起こり敗北。台湾へ逃れ、1950年台湾総統となった。

▲日中戦争の勝利を誓う毛沢東(左)と蒋介石(右)

日本軍は、1937年末に首都の南京を占領し、その過程で、女性や子どもなど一般の人々や捕虜をふくむ多数の中国人を殺害しました。



百人斬り超記録 南京106105屠殺 南京大虐殺の犠牲者

内戦から統一へ

中国では国民政府をつくった中国国民党と、中国共産党との間で内戦が続いていた。しかし、日本軍が中国への全面的進出を決めると、協力して日本に抵抗するための統一戦線を結成した。

▲抗日壁面の前を行く日本軍兵

しかし、国民政府の蒋介石は、首都を漢口、次いで重慶に移し、アメリカやイギリスなどの支援を受けながら、戦争を続けた。



←日中戦争の広がり

日本軍は「点と線」つまり都市と鉄道を支配しただけだった。

(2) 強まる戦時体制

日中戦争が長期化するにつれて、日本では政府が軍部の要求に従い、軍事費を増やすとともに（ ）を整えていきました。

1938年、（ ）内閣の下で（ ）が制定され、政府は議会の承認なしに、労働力や物資を動員できるようになりました。

1940年には、近衛が総力戦のために（ ）の体制を作る運動を始め、政党内閣は解散して、新たに結成された（ ）に合流しました。また、労働組合なども解散しました。

(2) 日本国内の様子について



(4) 植民地の朝鮮では、日本語の使用、神社への参拝、創氏改名など（ ）政策がすすめられました。さらに志願兵制度が実施されるなど、朝鮮の人々も戦争に動員されました。皇民化政策や戦時動員は台湾でも行われました。

(3) 国民の生活や思想について



▲戦料などを配給する切符



▲動員された朝鮮の若者たち 朝鮮では、1938年に、陸軍の志願兵制度が作られました。



創始改名

まとめ

A large rectangular box with a dashed border, intended for students to write their summary of the lesson.